

平成 23 年度事業計画

1. 個別事業計画

1.1 滑空スポーツ統括団体としての事業

- 1.1.1 調査事業:国内滑空場マップの充実(当協会 HP に掲載中) および滑空統計(滑空場、滑空機、機材、愛好者、活動など滑空スポーツ基礎データ)の収集・充実
- 1.1.2 連携事業:関係諸官庁、FAI(IGC 及び CIMP)、(財)日本航空協会、航空スポーツ諸団体、(財)日本学生航空連盟および関係団体、滑空クラブとの連携。
- 1.1.3 キャンペーン事業:有事に適宜実施
- 1.1.4 情報発信事業:ホームページ運営及び JSA Info 発刊(7,11,3月に発行 印刷数 900 部。
内容の更なる充実には編集メンバー補強、現状の大幅な赤字改善策が必要。

1.2 滑空スポーツ普及に関する事業

- 1.2.1 相談答申事業:従来通り
- 1.2.2 展示デモ体験事業:スカイレジャー・ジャパンの開催は未定。妻沼フェスタ(2012.3.3)への参加検討。

1.3 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

- 1.3.1 滑空記章事業:銅章規定の改訂(ガグル、空域・フライトプラン、アウトランディング時操縦技術追加)
- 1.3.2 指定養成事業:我国の滑空機技能証明取得者のなかで当協会施設の割合は数%に満たず、減少傾向にある。単なる事業継続では無く、改善が必要。

1.3.3 育成事業

- * 日本スポーツ振興くじ助成事業として滑空スポーツ講習会及び異常姿勢からの回復トレーニングを実施。
 - ・滑空スポーツ講習会:開催地と打合せて全国 4 か所で上級及び大学生向を合計 8 回実施予定。
 - ・異常姿勢からの回復トレーニング:曲技体験及び 100m 程度からの索切着陸を想定した体験を追加。妻沼滑空(7月下旬 40 名)および福井空港(9/中旬 3 連休 20 名)で開催予定。
- * 実習付講習会:ナビゲーション講習会、リハビリパイロット向け講習会などを随時企画実施。
- * 航空安全講習会:当協会主催で 4 回開催の予定。

1.4 滑空スポーツ競技会に関する事業

1.4.1 競技会事業

- * 主催事業 日本スポーツ振興助成事業として下記 2 競技会実施
 - ・第 14 回全日本学生グライダー新人競技会:10/9~15 木曽川滑空場 24 チーム選手 40 名。
複座機に教官同乗での基本操作。
 - ・第 52 回全日本学生グライダー競技選手権大会:3/3~10,2012' 妻沼滑空場参加 20 機選手 50 名、滑空場周辺 9km 圏内での数十kmの周回速度競技、GPS 使用(貸与)。
- * 後援事業
 - ・主催者の申請により、表彰規程に基づいて対応
 - 銅章レベルの滑空スポーツ競技会:日本滑空協会賞提供
 - C 章レベルの滑空スポーツ競技会:滑空奨励賞提供

その他イベント：滑空奨励努力賞提供

*On Line Contest の推進 OLCを活用して、ソアリング活動や滑空競技会を活性化する施策を行う。

1.4.2 スポーティングライセンス事業 ：従来通り

平成 23 年度収支予算

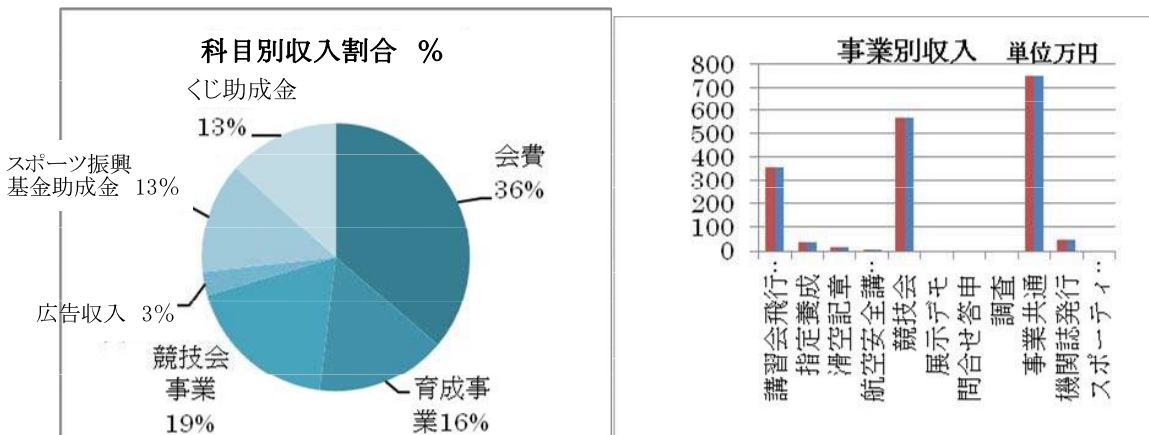
当協会に投資活動は無く、指定財産も無いので、会計はすべて経常収支の範囲である。

“事業共通”科目は本来各事業に賦課する額を分割せずまとめたもの。

概要

予算規模は 1,800 万弱で昨年度 1,250 万より大幅増加。予算のうち会費を主とした安定的収入は約 700 万で、これで固定費を賄っているが、この範囲では指定養成、滑空記章、航空安全講習会程度の活動しか出来ない。リスクの無いこの範囲が普通の法人活動ですが、当協会では 23 年度、このほかに 1,000 万円規模の事業を加えた事業計画を行う。具体的には滑空スポーツ講習会、安全飛行大会、新人学生グライダー競技会、および全日本学生グライダー選手権で、日本スポーツ振興センター助成金対象事業として実施する。

当協会平成 23 年度予算の収入総額は 1,795 万で、内訳は下記グラフのとおり。



平成 23 年度予算の支出総額は 1,740 万（事業費：1,500 万 86%、管理費 14%）、収支は 56 万、3%の黒字。事業のうち公益事業が 76%、その他（共済事業）10%の内訳となる。

